キハダ樹皮生産について

1　はじめに

国内でのキハダ樹皮の昭和62年の生産量は、83.7トンで、その約6割に相当する50トンが本県で生産されました。しかし、この生産量は表－1のように年により変動があり不安定な状況です。

キハダの植栽も一部で積極的に行なわれ、その面積は57.7haに及んでいるものの、まだ未成熟林分が多く収穫に至っていません。現在のところ天然散生木にたよっていますが、薬用としての需要は根強く、国内産で賄うには不十分で、海外からの輸入にたよっています。

キハダの採皮量に関する資料としては、「長野県の特用林産物」[1]や「キハダ林造成技術」[2]などに報告されていますが、昭和62年7月中旬、26年生キハダの採皮を実施したので、この調査結果について考察してみました。

2　供試木の概要

生育地は元林業指導所構内の標高713mの平たん地（年平均気温10.8℃、年平均降水量997㎜）で、隣接するサクラ、クリ、ケヤキなど広葉樹と競合して生育していました。

供試木3本の形状、採皮量などは表－2のとおりですが、3本のうち1本は根元から双方に分岐していました。

⑴　生育状況について

供試本数が少なく既存の資料と比較することは適切ではないと思われますが、ほぼ良好な生長を示していました。

本県のキハダの天然分布についてみると、北部の多降水量地域に多く、適地としては適潤性、弱湿性の肥沃地で、有効土壌が深く排水良好のところとされています。塩尻のように寡雨地域においても条件が整えば、自生地に劣らぬ生育を示すことが今回の調査で分かりました。

なお、元林業指導所の生育地は旧苗畑堆肥舎跡地でPH6.0（一般の褐色森林土4.5～5.5）とやや高く、適潤性黒色土で炭素含有率8.80％、窒素含有率0.67％と成分に富んでいることが良い生育に結びついたと考えられます。

⑵　採皮量について

キハダ採皮量について、山地植栽木（表－3）と天然散生木（図－1）のデータを比較してみ

表－1　長野県キハダ樹皮生産量

年	56	57	58	59	60	61	62
生産量(t)	25	15	15	58	38	52	50

表－2　供試木採皮量

	1	2	2′	3	平均
樹高(m)	15.3	15.4	15.4	16.2	15.6
胸高直径(cm)	18	20	20	30	22
採皮生重量(kg)	17.9	13.9	25.2	41.8	24.7
採皮乾重量(kg)	9.9	7.8	13.0	24.3	13.8
同上歩止り(%)	55.3	56.1	51.6	58.1	55.3
枝下高(m)	7.0	8.0	8.0	9.0	8.0

注）供試木2と2′については、同一箇所に根元から分かれて生えていたものである。

ると、今回の供試木は良い生育状態を反映して歩止りもよく、乾重量でも優れていました。

3 まとめ

本県でキハダ樹皮を毎年50トン採取するためには、図－1を参考にすると、平均胸高直径25cmの林分では採皮乾重量はおよそ12kgとなるので4,200本位必要となりますが、これらを一斉人工林で賄うことはできないため、やはり天然に小群状で生育しているものに当分の間たよらざるを得ないのが現状です。

また、キハダ造林を推進するには、次のことが重要なポイントになります。

① 植栽には適地を選定し、良好な生育状況を得るようにする。尾根筋は避け、標高は1,000m以下のところが望ましい。

② 植付け穴は大きくし、腐葉土類4kg、化成肥料50gを混合した基肥を施す。

③ キハダは陽樹であるから、下刈り、つる切り、除伐を行ない陽光を十分に与える。

④ キハダは生長の良い樹木ですが、幹や枝が軟弱で折れやすい欠点があるので、生育状況に応じて整枝剪定し、枝下の高い樹形に仕立てる。

⑤ テッポウ虫（コウモリガ、カミキリ類）の被害を受けやすいので、根元周辺の雑草を刈払い明るい環境にする。

参考文献

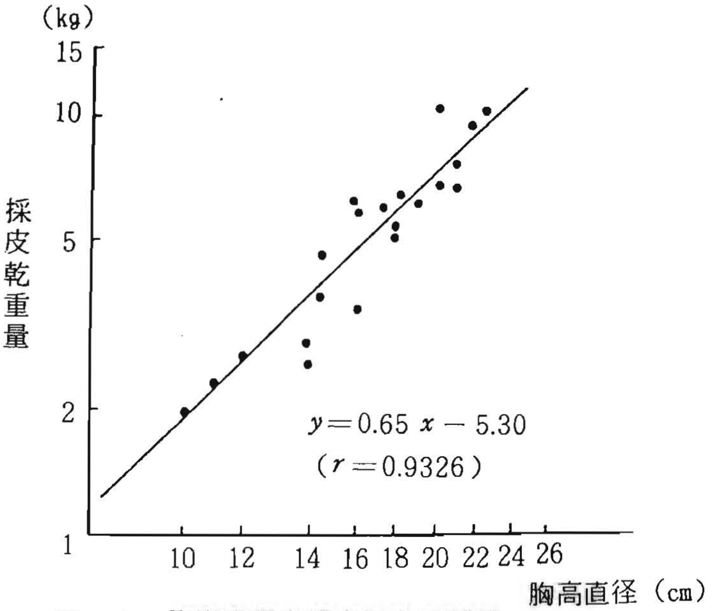
(1) 長野県；長野県の特用林産物　―キリ、ウルシ、キハダについて―　1980

(2) 長野県林業指導所；キハダ林造成技術、1985

表－3　山地植栽木採皮量

	1	2	3	4
樹　令（年）	8	15	17	20
樹　高（m）	6	8	10	17
胸高直径（cm）	13	19	17	28
採皮生重量（kg）	4.5	12.0	12.8	38.4
採皮乾重量（kg）	2.1	5.4	5.3	19.3
同上歩止り（%）	46.7	45.0	41.4	50.3

注）1975年7月28日小谷村で北安曇地事林務課調査



図－1　胸高直径と採皮量との関係

注）供試木生育地は、木曽郡楢川村実験林、標高平均1050m、北・北東面の急傾斜地、土壌BD型。供試木23本は、天然広葉樹林内に2～3本の小群状で生育し、他の広葉樹と同様の伸びを示していた。平均樹令27.7年、平均樹高13.7m、平均胸高直径11.5m、平均採皮生産量11.1kg/本、同乾重量5.1kg、平均歩止り46%であった。

（特産部　一ノ瀬）